



*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ — 経済回復への期待 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

●「霧多布港海岸防潮堤嵩上げ改良 完成式典」が開催されました
(北海道浜中町 水産課)

●東京湾再生の願いを込めて～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～
(関東地方整備局 港湾空港部)

●兵庫運河での環境調査を実施
(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

●「瀬戸内海クルーズ推進会議 クルーズ船誘致活動(第5弾)」を開催しました
(瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局(近畿・中国・四国・九州地方整備局港湾空港部))

●「瀬戸内海クルーズ推進会議 (瀬戸内探検クルーズセミナー)」を開催しました。
(瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局(近畿・中国・四国・九州地方整備局港湾空港部))

●クルーズポートコンソーシアム沖縄における統一した優先予約の開始
～2024年分も沖縄発着クルーズ、長期周遊・ワールドクルーズの岸壁予約を優先して一
括で受け付けます！～
(沖縄総合事務局 港湾計画課)

*:

2 トピック

*:

●「霧多布港海岸防潮堤嵩上げ改良 完成式典」が開催されました

(北海道浜中町 水産課)

北海道浜中町は12月11日、「霧多布港海岸防潮堤嵩上げ改良」の完成式典を町役場で開催、関係者約30人が出席して、防潮堤の嵩上げ完成を祝いました。

式典では、主催者である霧多布港港湾管理者の松本博浜中町長が式辞として、「浜中町は昭和27年の十勝沖地震津波、昭和35年のチリ地震津波をはじめ、過去に多くの津波災害を受け、その後、旧運輸省によって長さ1.9km、高さ4.3mの防潮堤が建設された。これにより、平成23年の東日本大震災による津波では、住民の生命と財産が守られた。一方、東日本大震災を教訓とした津波の考えが見直され、北海道が霧多布港海岸における設計津波水位を5.1mと発表したことを受け、平成28年度より既存の防潮堤を90cm嵩上げし、高さ5.2mにする工事に着手、平成30年度からは「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を活用し、令和3年に完成した。これにより、住民が『安心して暮らせるまちづくり』に一步進めた」と述べました。

次いで、来賓として伊東良孝衆議院議員、鈴木貴子衆議院議員、鈴木宗男参議院議員(いずれも代理)から祝辞を頂き、その後、浅輪宇充国土交通省港湾局長からの「浜中町は日本で初めて津波防災ステーションを整備するなど、大変熱心に津波防災に取り組んでいる。役場庁舎や津波防災ステーションの高台移転等と一体となった霧多布港海岸防潮堤の嵩上げ事業は、災害に屈しない強靱な国土づくりに大きく貢献する」とする挨拶文を魚住聡国土交通省北海道開発局港湾空港部長が代読しました。最後に来賓や関係者によりくす玉割りを行い、完成を祝いました。



テープカット時の様子

●東京湾再生の願いを込めて～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～

(関東地方整備局 港湾空港部)

12月22日(水)、サンタクロースに扮した横浜市立金沢小学校の子ども達から、関東地方整備局へアマモの種が届けられました。

横浜市立金沢小学校では、「金沢八景－東京湾アマモ場再生会議」とともに、野島海岸や金沢区海の公園などでのアマモ場再生活動に熱心に取り組んでおり、自分たちで採集したアマモの種で「東京湾を海の生き物でいっぱいにして欲しい」との願いを込め、「アマモメッセンジャー(アマモに東京湾再生のメッセージを込める者)」として、平成19年から毎年訪れており、今年で15回目を迎えます。

アマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、沿岸の浅瀬に分布し、魚類などの産卵場、成育場として重要な役割を果たしており、二酸化炭素を吸収するブルーカーボンの代表として、温暖化対策の観点から世界的に注目を受けています。

関東地方整備局では、持続した価値ある取り組みとして活躍する子ども達の善意に感謝し、届けられたアマモの種を東京湾再生への活動の輪として大きく育ててまいります。



横浜市立金沢小学校の子ども達による発表



届けられたアマモの種

●兵庫運河での環境調査を実施

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

近畿地方整備局では神戸港が物流・産業・生活の場として持続可能な発展を遂げていくため、環境に配慮した港湾整備に取り組んでいます。その中で、役目を終えた防波堤を撤去する際に生じた土砂の有効活用と、神戸港に海の生き物の新たな生息場を創出することを目的に、令和2年11月、兵庫運河に人工干潟「あつまれ生き物の浜」を造成しました。

この干潟並びに周辺海域では継続的に環境調査を行っていますが、造成後約1年が経過した時点での干潟が有する水質浄化機能などを把握することを目的に、神戸市港湾局・大阪府立大学工業高等専門学校・地元漁協と連携し、令和3年11月19日(金)から20日(土)にかけて環境調査(1時間毎の水質測定、採水・分析、流速測定及び環境DNA調査(生物種調査))を実施しました。

この干潟は地域の方々の関心も高く、小学生による生き物調査の報告や近隣住民の方からクロダイ等の観察報告をいただくなど、地域の結びつきを担う役目も果たしており、今後もこうした調査をはじめとし、兵庫運河が「豊かな自然を感じる場」、また「賑わい創出の場」として、地域の方々に愛される里海となるよう取組を継続していきます。



御崎橋上

採水・流速調査(24時間調査)



DNAサンプル採水、水質調査



材木橋上

採水・流速調査(24時間調査)



分析作業用テントの設置



採取資料の解析



採取資料の濾過



【兵庫運河位置図】

●「瀬戸内海クルーズ推進会議 クルーズ船誘致活動(第5弾)」を開催しました

(瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局(近畿・中国・四国・九州地方整備局港湾空港部))

「瀬戸内海クルーズ推進会議」では、アフターコロナ時代のクルーズ振興に向けた取り組みとして、1月29日にクルーズ船社等を招聘し瀬戸内海クルーズ推進会議メンバーによる誘致活動(商談会)をオンライン形式で開催しました。

本誘致活動においては、推進会議メンバー(全11府県の自治体)より船社に対して、これまでも取り組んできた寄港地の観光資源のPRだけでなく、クルーズ船内のレストラン等で使用される食材として、地元の特産品のPR活動も行われました。船社からは、「今後も瀬戸内海諸港へは寄港していく予定であるが、感染防止対策の観点から、クルーズ船を沖泊させて、通船で上陸する港湾への寄港はまだ難しい」、「とびしま海道に注目しており、クルーズ船の寄港地で観光型高速クルーザー“シースピカ”のような船が利用できれば、多彩な商品を展開できる」、「現在のコロナ禍において、外国クルーズ船の寄港再開の目処が立たず、日本寄港は何ら決まっていない」など、ご意見をいただきました。

今後も瀬戸内海クルーズ推進会議メンバーが連携して、瀬戸内海の魅力をより一層PRしていく予定

であり、コロナ前以上にクルーズが賑わうことを願っています。

○瀬戸内クルーズHP : <https://setouchi-cruise.uminet.jp/>



瀬戸内海クルーズ推進会議 クルーズ船誘致活動(第5弾)開催状況

- 「瀬戸内海クルーズ推進会議（瀬戸内探検クルーズセミナー）」を開催しました
(瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局(近畿・中国・四国・九州地方整備局港湾空港部))

「瀬戸内海クルーズ推進会議」では、アフターコロナ時代のクルーズ振興に向けた取り組みとして、12月9日、クルーズ業界で最も急成長していると言われる探検クルーズをテーマとしたセミナーを開催しました。探検クルーズとは、小型ラグジュアリークルーズ船(乗客定員100-300名程度)と同船に搭載するゾディアックボートの機動力を活かし、小さな港町や秘境、大自然等を巡るもので、瀬戸内海クルーズ推進会議としても誘致に力を入れており、当日は同会議メンバー等、約70名が参加しました(視聴者はオンライン形式にて参加)。

本セミナーでは、ポナン日本・韓国支社長の伊知地氏より、同社が世界各地で販売している探検クルーズ商品や検討中の瀬戸内探検クルーズについて講演いただきました。その後、パネルディスカッションにおいて、沖縄県座間味村の宮里哲村長より沖縄探検クルーズの誘致・受入に関する取り組みについて紹介いただき、また、探検クルーズを誘致している福山市、尾道市、呉市の担当者より、探検クルーズに適した寄港地の紹介が行われました。

伊知地氏からは「探検クルーズはその機動力を活かし、朝に1箇所寄港し、クルーズ客が船内で昼食を楽しんでいる間に移動、午後に1箇所寄港し、夜間に移動するスケジュールを組んで多くの箇所を効率的に訪問可能。移動距離も考慮の上、複数の寄港地をセットで提案いただけると検討しやすい。」、「外国人客には10泊以上のクルーズ商品も売れるが、日本人客もターゲットにすると6-8泊程度が限界である。限られた日数で広いエリアをクルーズする商品を企画するには、夜間の移動時間を効果的に使えるような寄港地の組み合わせが理想。」といった貴重な意見をいただきました。

今後も瀬戸内海クルーズ推進会議メンバーが連携して、瀬戸内海の魅力をより一層PRしていく予定であり、コロナ前以上にクルーズが賑わうことを願っています。

○瀬戸内クルーズHP : <https://setouchi-cruise.uminet.jp/>



瀬戸内海クルーズ推進会議 瀬戸内探検クルーズセミナー

●クルーズポートコンソーシアム沖縄における統一した優先予約の開始

～2024年分も沖縄発着クルーズ、長期周遊・ワールドクルーズの岸壁予約を優先して一括で受け付けます！～

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

クルーズポートコンソーシアム沖縄(事務局:沖縄総合事務局、以下、「本コンソーシアム」という。)では、各港湾(石垣港、平良港、中城湾港、本部港)のクルーズ船の岸壁予約について、優先対象・受付方法を統一した予約制度(以下、「本優先予約」という。)を2021年(2023年分予約)に試行し、引き続き2024年分の予約についても、2022年4月より受付を開始する予定です。

沖縄県が新たな振興計画で掲げることを検討している「質の高いクルーズ観光の推進」に向け、優先対象は沖縄発着クルーズ(フライ&クルーズ促進)、長期周遊・ワールドクルーズ(ラグジュアリー船誘致)とし、申請期間中は、港湾毎に予約申請する必要はなく、クルーズの行程単位でまとめて申請が可能となります。

<これまでの経緯>

沖縄総合事務局では、県内港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市)と連携して、クルーズ船の寄港に関する課題等(寄港誘致等)の情報共有・解決に取り組むため、本コンソーシアムを2020年(令和2年度)に設立し、県内港湾のクルーズの予約受付方法について改善を検討してまいりました。

従前のクルーズ船の岸壁予約は、各港湾管理者がそれぞれ予約受付を行っており、予約の確定の結果公表時期もバラバラであったため、クルーズ船社は各港湾管理者へ個別に予約する必要があり、アイテナリーの一部で希望する日程の予約が取れず、アイテナリーを再検討する手間が発生していました。一方、港湾管理者にとっては、予約の仮押さえなどによる県内港湾での重複予約や直前のキャンセルが相次ぎ、各港での機会損失が発生しておりました。

本優先予約の実施により、各港湾ではなく、クルーズの行程単位での申請が可能となったことで、重複予約を事前に防止し、各港の機会損失を軽減することが可能になります。

